

禅の墨蹟 (恭真書)



菩提達磨大和尚 (中国禅宗始祖)
曹洞宗のお寺はお釈迦様～達磨様
～道元様～瑩山様と法が伝わる。

恭真墨蹟ネット ⇒



逢茶喫茶 逢飯喫飯

茶に逢うては茶を喫し、飯に逢うては飯を喫す

〈瑩山禅師のお言葉〉

お茶が出たらお茶を飲み、ご飯が出たらご飯をいただく。ただ目の前のことに集中することが大事です。澄んだ心で、何ごとにも自



佳穂 もうすぐ10ヶ月



然に当たり前に対処すること。人生の受け止め方をさりげなく教えてくれる禅の言葉です。

心に残る言葉

何かをしよう

みんなの人のためになる 何かをしよう

よく考えたら自分の体に合った何かがある筈

だ 弱い人には弱いなりに 老いた人には老いた人なりに 何かがある筈だ

生かされて生きている ご恩返しに 小さいことでもいい 自分でできるものをさがして何かをしよう

一年草でもあんなに美しい花をつけて終わってゆくではないか

坂村真民

坂村真民

□梅花だより

おどくの池にいみじくも 濁りに染まぬ蓮の花 奉らなんみ仏に

花供養御詠歌・供華

仏様が鎮座されているところは、蓮の台です。お位牌、お墓にも蓮が施されている。あの世の蓮の台には亡き人がおられる。泥にあつて泥に染まらぬ蓮の花、きれいな蓮は亡き人そのものです。

■訃報 木崎浩哉老師御遷化

平成三十年十一月二十日示寂、世寿九十三歳。贈大本山永平寺西堂、福井県おおい町清福寺七世、小浜市興禅寺二十九世。当寺先代洞光和尚より三つ年下でありましたが、永平寺修行中よりの長いお付き合いでありました。平成十九年先代本葬儀には乗炬師(葬儀導師)並びに通夜のお説教を賜りました。謹んで真位を増崇し奉ります。(写真は洞光大和尚本葬儀の折)



木崎浩哉老師

仏事の知識

〈お盆の由来〉

お盆の語源は、「盂蘭盆会」うらばんえ」であり、「盂蘭盆」はインドのサンスクリット語の「ウランバナ」、訳すと「逆さ吊り」と言う意味がある。これはお釈迦様の弟子目連尊者が餓鬼の世界で逆さ吊りの苦しみを受けている亡き母を救うため、お釈迦様から言われたとおりに、夏の厳しい修行が終わる七月十五日に修行僧に沢山の食事の供養をしたところ、亡き母はその功德で天に生まれ変わったとされる。これがお盆の行事の始まりと言われている。お盆は亡くなられたご先祖様が年に一度、仏の世界から帰り供養を受ける日です。お仏壇、お墓をきれいにお掃除をして、心から故人を偲び、感謝の気持ちで手を合わせ、お盆をお迎えいたしましょう。

仏事の知識
↓QRコード



●曹洞宗公式ホームページ

<http://www.sotozen-net.or.jp/>

●曹洞宗禅ナビ (寺院ポータルサイト)

<http://www.sotozen-navi.com/>